

ぎかい



2015.10.16

小国町議会だより 第126号



平成26年度 決算を認定

ピンナップ

- 決算審査特別委員会
- クローズアップ「婚活」
- 委員会レポート

特別会計・企業会計決算 **認定!!** を超えず!!

平成27年 9月定例会

9月3日(木)～11日(金)

9月定例会は、9月3日(木)より9日間の日程で開かれた。26年度各会計決算の認定、27年度一般会計、特別会計、企業会計の補正予算、人事案件など31件が審議され原案のとおり可決した。なお、26年度各会計決算の認定は、決算審査特別委員会に付託され慎重な審議が行われた後、本会議において全員賛成で認定された。請願は1件提出され、文教産建常任委員会に審査を付託し、本会議において願意妥当として採択した。一般質問は6名の議員が行い、当面する諸問題を町長に質問した。

本会議の様相(録画)は、議会HPで公開しております。詳細はそちらでご確認ください。
ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>

一般会計に
2億8152万9千円
の追加

一般会計の主な補正

◆地域資源活用多角的熱利用検討業務

地域資源を活用した再生可能エネルギーの多角的な利用方策の検討と、新たな産業の創出・雇用の確保を図るための導入に向けた調査検討業務に係る経費を組み替え。

◆地域資源ブランド構築

研究業務

山の幸、川の幸、里の幸に恵まれ、マタギ文化をはじめとする伝統的な文化・芸能など、多様な地域資源を「白い森の国 おぐにブランド」として発信するための戦略構築

事業に係る経費を追加。
◆路線バス運転業務

高齢社会における公共交通の利便性向上を検証する試行的な運行として、町営バス循環線の路線延伸に係る経費を追加。

◆新規狩猟免許取得交付金

野生鳥獣による農作物被害等の防止対策の一環として、狩猟免許の新規取得等に要する経費に対する助成経費を3名分追加。

◆特用林産物生産支援事業

山菜やキノコなどの特用林産物の生産拡大や高品質化及び高付加価値化を進め、本町ならではの産業として定着を図るため、生産出荷等に必要な機械・施設の整備等に要する経費の一部支援に係る経費を追加。

◆地域資源活用型産業創出事業

町内の民間事業者から新たにドライトマト等の商品開発を行い、市場取引に取り組むとの計画申請があつたため、開発経費の一部を支援するための経費を追加。

特別会計の主な補正

◆簡易水道事業

白沼簡易水道の水源地と配水池の間に敷設している導水管30メートルが道路崩壊により露出しているため、修繕に要する費用を追加。

◆国民健康保険事業

出産育児一時金について、当初の予定を上回る見込みとなつたため所要額を追加。

人事案件

平成27年10月14日をもって任期満了となる教育委員会教育長の遠藤啓司氏(大宮)を適任と認め、再任に同意。

◇任期

平成27年10月15日
平成30年10月14日

請願

TPP交渉にかかる国会決議の実現に関する意見書提出方請願を採択(請願者)

山形おきたま農業協同組合
代表理事組合長

木村 敏 和

山形おきたま農協
農政対策本部長

木村 敏 和



TPPにゆれる農業

平成26年度 一般会計61億8019万円他 町税2年ぶり増収も10億円

◆一般会計収支

26年度決算

**歳入決算額
66億4千万円**
(うち町税9億8千万円)

－

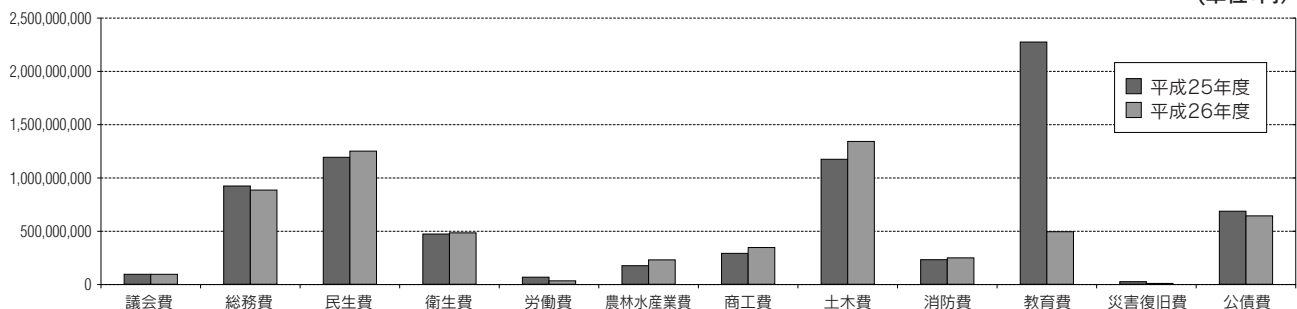
**歳出決算額
61億8千万円**

=

**収支差引
4億6千万円**

◆一般会計内訳

(単位:円)



◆各会計歳出決算書

(単位:円)

	平成25年度	平成26年度	対前年度比(%)
一般会計	7,798,874,998	6,180,197,787	79.2
簡易水道事業特別会計	40,991,485	17,561,486	42.8
国民健康保険事業特別会計	803,990,179	831,114,233	103.3
部落有財産特別会計	1,875,646	1,757,560	93.7
下水道事業特別会計	372,936,209	427,972,792	114.7
訪問看護特別会計	70,627,328	70,620,733	99.9
介護保険特別会計	958,655,551	963,304,809	100.4
後期高齢者医療特別会計	95,767,487	96,148,399	100.3
合 計	10,143,718,883	8,588,677,799	84.6

◆各企業会計決算書

(単位:円)

	総 収 益	総 費 用	純 損 失
小国町病院事業	1,046,268,000	1,097,055,000	-50,787,000
小国町老人福祉施設事業	324,941,000	344,104,000	-19,163,000
小国町水道事業	108,330,000	92,333,000	15,997,000
小国町工業用水事業	121,017,000	137,585,000	-16,568,000

一般会計繰入金合計486,608,000円

総務企画課

Q 次期総合センター整備構想策定事業に着手しているが、27年度も継続されている。いつまで続くのか。

A 26年度は、コンセプトや必要な機能等について調査した。構想策定は、27年度で終了する。その後は、財源や社会的状況を勘案して実施計画に移る予定である。

Q 役場庁舎チップボイラーのチップ使用量の増加や、決算額の減少など温水造成供給事業に改善のあとが見えるようだが、改善の主な内容は。

A 担当の努力の成果と思われる。ただ、チップの含水率の調整などまだまだ改善の余地があることから、今後も効率的な稼働に努力をしていく。

地域整備課

Q 住宅リフォーム総合支援事業は、新築着工件数が減る中で需要の多い重要な事業だ。今後も継続する考えは。

A 26年度は50件の補助を行った。その他に木材製品利用推奨の助成が21件あり、町内の住宅環境の質の向上に努めた。今後についても県に対し、継続の継続に努めていく。

Q トイレ環境が劣悪な公園が見られるが、公園管理体制は。

A 町民にとって憩いの場、癒やしの場、集いの場であり、安心して利用していただけるよう管理に努める。



町民税務課

Q 町営バス内循環東まわりは、空のバスが走っている様な印象を受けるが、採算はとれているのか。

A 26年度、内循環東まわりの運行費用に対する料金収入の割合は7%台である。内循環東まわりは、26年度に運行開始したものであり、年度が経過するなか状況を確認していく必要がある。

Q 防災情報伝達システム整備事業の基本設計に取り組んでいるが、緊急災害時に防災ラジオでの家庭への伝達だけでなく、高齢者世帯から情報を発信できる仕組みも検討に加える必要があるのではないかと。

A 他自治体では、防災情報伝達システムとは別の機器を使つての高齢者見守りが見受けられる。防災情報伝達システムの運用にあたっては、連携できる点は検討したい。

教育委員会

Q 町内8校の廃校校舎維持管理にかかる経費が相対的に財政を圧迫しているが、今後の利活用も含めた対策を早急に進めるべきではないかと。

A 公共施設でもあるので、総務企画課とも相談をしていかなければならない問題と考える。優先順位を早急に決めて検討したい。



Q ICT活用調査研究事業の効果、成果はどうか。

A 今年度、小国小学校の全教室に電子黒板を設置したところである。来年度は小国中学校でも導入する方針である。

産業振興課

Q 地域経済活性化支援事業として、プレミアム買い物券の販売方法に社会的平等性を考えた場合、特定枠を設ける施策が必要ではないかと。

A 実施団体である小国町商工会でも販売方法の検討は重ねているが、今後実施する際には検討していきたい。



Q サルによる農作物への被害状況はどうなっているのか。

A 町で把握している被害額は186万6千円で、捕獲頭数は137頭となっている。

建康福祉課

Q 高齢者等宅道除雪モデル事業を実施しての成果と課題は。

A 公道から玄関まで10m以上あり除雪が困難な51世帯のうち21世帯が対象

となり、木材製材業組合に委託した。
「ありがたい」との感想がほとんどであったが、1事業者で町全体をカバーすることは難しく現地の状況により周辺部の除雪を一体的に行わないと効果的でない等の課題も見えた。
27年度は効果と課題を検証し事業を実施していきたい。

町立病院

Q 病院事業会計負担の状況をどのように考えているか。

A 公営企業法の中で一定の根拠をもって繰り出す定めがある。総務省が基準を示し、例えば公債費、へき地医療、救急医療等に要する経費などがその対象だ。医師の確保や材料費等で経費がかさむ要因が大きい。繰出基準に基づくものの町全体の財政状況の中で負担額が決定される。
今後ともできるかぎりその幅を圧縮するように努めたい。

決算審査特別委員会報告書

9月3日、本委員会に付託された平成26年度の小国町各会計の決算審査について、4日、7日及び8日の3日間にわたり関係課長等の出席を求め審査を行った。

急激な人口減少、少子高齢化の進む本町において、住民福祉の向上を果たす効果的な事業の執行には、これまで以上に課を横断した連携が求められる。

それを確認し、平成26年度の各会計決算12件については、次の意見を付して認めざるべきものと決したので、小国町議会会議規則第41条の規定により報告する。

- 1 廃校校舎維持管理事業として、統廃合により閉校となった8校の維持管理に、年間2,000万円を超える金額が支出されている。廃校校舎の利活用については、地域との話し合いも含め検討が進められているが、今後の利活用の方向性を町民に開示し、維持管理に係る経費の支出が年々かさむことのないよう、施設の有効活用と町民福祉の向上の視点から、早急に対応されたい。
- 2 税収が伸び悩む財政運営の中、水道事業会計を除いた各企業会計に対する一般会計負担金が増額となっている。各会計とも厳しい経営状態が続いているが、健全化に向けて、なお一層効率的な運営に努められたい。
- 3 本町における経済雇用状況は回復基調にはあるものの、いまだ厳しい状況に置かれている。新たな雇用の場の確保は、既存産業の振興とあわせ喫緊の課題となっている。本町の自然の特性を生かした農業の六次産業化の振興を、なお一層推進し、雇用の拡大を図られたい。

また、観光交流推進協議会が担う連携した取組みが、既存観光交流施設の活性化を促進し、観光、交流人口が増加し、雇用の確保につながるよう検討されたい。

平成27年9月11日

決算審査特別委員会

委員長 伊藤 重 廣

小国町議会議長 高野 健 人 殿



ICT…情報通信に関する技術の総称で、ICT教育とは情報通信技術の利用・活用方法を教育の一環として取り入れた教育、または、ICTを駆使した教育のこと。具体的には、電子黒板やノートパソコン、タブレット型端末などを用いた教育を指します。

少子化に危機感を 若者に支援を 平成25年出生数51人・平成26年出生数41人



こ せき かず よし
小 関 和 好 議員

町内の出生者数の推移

	H10	H15	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
男	48	34	25	28	25	26	36	22	22
女	32	39	34	32	32	30	23	29	19
合 計	80	73	59	60	57	56	59	51	41

行政が 仕掛ける時代

小関 少子化問題関連では、度々一般質問をさせてもらっているが、ここ2年間の出生数は深刻である。

平成25年の出生数は、51人であり平成26年には、41人となっている。もったさかのぼれば、平成20年以降ほとんど60人を超えなくなっている。

小国町の子育て支援は他市町村に比べ大変充実していると考えているが、少子化解消には至っていない現状である。このまま少子化が進めば小国高校の存続はおろか地域の存続さえ危ういと考える。

婚活がすべてとは言わないが、若い人のサークルへの支援や若い人同士の交流事業など今やれる事をやらなければ、少子化は止まらないと考える。民間の盛り上がりを待っている時間はない。昨今は、行政が仕掛ける時代であり、その優劣がその自治体の賑わいに比

例すると感じている。現在の少子化を止めるには、子育て支援も就労支援も大事であるが、若い人たちがいるような場所では出会う仕掛けや、活躍の場が必要だと思う。未来を担う若者でなく今を生きる若者に対する町長の姿勢をうかがう。

一つの施策・一つの 事業で成果を出す のは難しい。

町長 指摘の通り出生数の減少は進んでいる。現在出産可能な人口の動向も踏まえながら、子育て支援策の充実を図っている。加えて教育環境の充実を含め、今後子育て世代を呼び込む施策も展開していきたいとも考えている。

若い人への支援についての婚活の取り組みについてはこれまでの質問に答えているとおり、基本的には、結婚は個人の価値観・人生観といった極めてプライベートかつデリケートな問題であり行政の関わり方や対応については慎重に進める

べきと考えている。行政が積極的に仕掛けるべきとの指摘であったが、現在、置賜広域行政事務組合において男女の出会いの創出、婚活に向けた準備のためのセミナーなどを展開している。このような広域的な取り組みは一市町村内で行うよりも参加しやすいと考えているので本町としても積極的な情報発信に努め、若者の参加を促進していく。町内の民間団体の婚活に対しては内容に応じて支援していくつもりである。

若者の活躍できる場が必要であるとの事は同感である。現在策定中の地方版総合戦略においても若い人の結婚・出産・子育てに対応した取り組みの充実を図るための施策構築を検討しているところである。いずれにしても一つの施策、一つの事業では結果を生み出すことは難しいので総合的な取り組みが必要と認識している。



いとう しげひろ
伊藤重廣議員

働く場の確保と 現産業へのテコ入れが必要

伊藤 人口減で商店やサービス業の売り上げは低迷してはいないのか。

町長 平成19年商業統計調査では、町内商店数129店、従業員519人、年間販売額80億円であったが、平成26年では92店、従業員403人、販売額56億円。ポイント会の26年度売上額は対前年比で89・1パーセントと、残念ながら町内における商業・サービス業の売上は減少している。しかし、ここに至って町内企業の業績改善とともに、飲食店を中心に緩やかに回復傾向がみられる。町内中核企業の安定的かつ持続的な経営活動は、本町経済を支える重要な基盤であり、他産業に及ぼす効果も多大なものがあることから、経営基盤の強化、雇用の安定を図るために最大限の支援をしてきた。

伊藤 中核企業の景気が持ち直される事は大変うれしいが、その中核企業に頼っ

てきたために他の産業がほとんど育っていない。小国町が町としての体をなし、様々な業種が継続していくためには、人口一万人が必要だ。町長が就任して3年が経過したが、その間にも人口の減少が著しい現状にあるため、歯止めをかけ町民が将来に不安の無いようにすべきだ。

町長 これからは、第1次・2次・3次産業これらが均衡ある発展ができるよう支援をしていきたい。

伊藤 農産物の売渡し農家数が減少している。その数・所得等を把握しているのか。また、農業が町土保全に大きく関係している事を承知しているのか。

町長 米の売渡し農家は、平成22年240戸、26年199戸。26年の所得は25年に比べ米価が大幅に下落した事と、経営所得安定対策交付金の単価が10アールあたり7500円と半額

になった事から、著しく減少した。町では、とも補償に対する補助金を増額交付するなど支援策を講じた。町土保全については、農業農村の果たす役割は極めて重要であると認識している。

伊藤 町の中核農業者の多くは、60歳を超えている。後継者対策も必要だが、今までの町と農業者のかかわり以上に、町土保全の面からも対応すべきだ。

米の反収を見ると、気候条件が悪い当町は置賜平均より2割程低い。更に、立地条件も悪いので、10アールあたりの経費も割り増しとなるにも関わらず、国、県からの農家への助成は一律である。

農業は生産の場（働く場）であり、地域を守り、町土を保全しているわけだから、継続のできるよう町独自の農業対策を行うべきである。

町長 確かに中山間地域ということで、コストの割り増し、生産量が劣っていることは事実である。農業者と行政が一体となって、自立できる農業に取り組んでいきたい。



町土保全の側面も担う農業

新たな文化施設について 計画の進み具合はどうなっているか



今 康 成 議員

『おぐに開発総合センター』に替わる施設の計画はあるか

今 文化・芸術活動が展開することも町民生活の充実さを測る尺度になると考える。老朽化が心配な総合センターの新築計画はどこまで進んでいるのか。

早急に対応する課題と認識している

町長 総合センターについては、建設当時より過疎問題に対応するまちづくりに重要な役割を果たし、現在においてもその存在は大きい。老朽化が著しく、時代の変遷とともに機能・設備の不足などが顕在化している。



築50年も間近となり老朽化が進んでいる

町民からの必要性についての意見や、各種文化団体からの強い要望を受けていることを踏まえ、早急に対応すべき課題と認識して鋭意調査検討に取り組んでいる。

昨年度は、整備にあつての基本的な考え方の検討に向けた論点整理を行った。本年度は、それに沿って詳細な整備構想と財源検討を加え、整備に向けた取り組みを行う。

現総合センターが多機能を有するまちづくりの拠点施設であることから、本町にふさわしい複合的な機能を持った施設のあり方を取りまとめる。

今 町長は文化・芸術に造詣が深い。実現できるのでは。

町長 小国町の自然、これからの暮らし、人口構成に合ったものでなければいけないので拙速にするべきではない。

必要な機能と掛かる経費、財源の確保について充分に検討している。

今 21世紀に生きる我々

が次代の為になるものを作らなければならない。

町長 変わりゆく社会環境を見据え、周辺地区がそれぞれの特色を持ったコミュニティを作るとともに、中心部での施設整備、機能がどのようにあるべきか、しっかりと考える。

今 再生可能な資源である木材を公共施設へ積極的に利用することで、小国町の産業の育成につなげることを望む。

町長 これまでも公共施設のあり方については、地場産を使った整備をしてきたし今後も継続していく。

町民の「やる気」に支援を

今 町民自ら行うイベント活動などへの費用面での助成制度を拡充するべきだ。

町の活性化に結び付く積極的に関与を

町長 住民が主体となって実施する企画に対しては、これまでも「ふるさとづくり総合助成」制度の活用や「小国町観光交流推進協議会」を通じた助成を行ってきた。それぞれの分野において企画を実施することは、町の活性化に結び付くので教育委員会をはじめ関係各課に積極的に相談していただきたい。



文化活動の拠点となっている総合センター



いしやま くみ こ
石山久美子 議員

小国町は何を目指して歩みを進めるのか

小国町のまちづくりについて

石山 盛田町長が就任され3年目を迎えた。町長が目指してこられた小国町のまちづくりのこれまでと小国町はこれから何処へ何を目指して歩みを進めるのか。

町長 基本理念は「町民主役のまちづくり」である。

政策課題として「人口一万人復活のまちづくり」を掲げ、町民の暮らしに寄り添う取り組みを進めてきた。

まずはまちづくりを担う町職員の意識改革、小玉川振興事務所、健康管理センター、アスモでの住民票・印鑑登録証明書の発行、また、「歩く町長室」「出前町長室」のほかに「地域づくり座談会」「ふれあい訪問」により町民の率直な声をスピード感のあるまちづくりに結び付けている。

買い物や通院など高齢者の足を守る地域交通体制の整備、スクールバスを活用した運行を実施した。

医療では電興診療所の診療科目を小国町立病院に統合し地域医療環境の充実に

努めている。

新小国小学校の完成に伴い小中学校の通学の支援の充実を図った。小国中学校への給食を実施し町内学校の完全給食の実現をした。

部活動におけるスクールバスの活用はもとより、学力向上支援員を配置し、学習支援の新たな取り組みとして地域と町内中核企業の協力による「白い森学習支援センター」を設置した。

妊婦出産支援金の交付、中学生までの医療費無料化、保育料の第二子を全て半額にするなど制度の充実を図っている。

コバレントマテリアル(株)所有の資産を取得活用し勤労者の安定的な雇用確保企業活動を支援してきた。

また、町内に新たな水力発電所の整備が計画され、間もなく着工の運びと伺っている。町内経済へ大きな効果が期待されている。

再生可能エネルギー活用では新小国小学校に二基目となる木質チップボイラーと太陽光発電システムの導入を行っている。

役場庁舎、道の駅に太陽光発電システム、木質ペレ

ットストープ、まきストープを設置した。さらに中央省庁、国会議員への要望活動を積極的に行い、新潟山形南部連絡道路についても大きく前進している。

こうした取り組みにより町政が実現することで、目指すまちづくりの方向に近づいていると認識している。

石山 高齢者を抱える家族の不安を解消する施策として、関係機関との連携はどのようなになっているのか。

健康福祉課長 認知症等による徘徊者や不明者が発生した場合に警察署、社会福祉協議会と情報を共有するなど連携をとっている。

本年5月に警察署と協定を交わし迅速な対応をすべく体制を整えている。

石山 「ゆ〜ゆ」の温泉施設部分について今後の活用をどのように考えているのか。

町長 「ゆ〜ゆ」では引湯管の不具合が発生し、修繕にも多額の財政負担が生じる。温水プールは営業して

いるが、温泉施設部分は今後活用できる見込はなく、財源確保できた段階で取り壊す考えだ。

石山 現在の施策は、小国町の5年後10年後を見据えた施策になっているのか。

町長 人づくりが重要である。現在の課題がさらに大きな課題となり、さまざまな施策を総合的に展開し、将来の小国町に投資をするという考えで長期ビジョンを見据え、議論を重ねていく。



現在休止している「ゆ〜ゆ」の温泉施設部分

独善的な町政運営は改めるべき



こばやし よしみ
小林 嘉議員

白い森(株)社長兼務 独善的な経営では？

小林 以前、町長が兼務すること、第3セクターの管理経費節減、事業の公共性確保のため有効であるとの答弁であった。所期の目的は果たしているのか。

宿泊者減、利用者増

町長 29期決算報告書のとおりである。宿泊者は、対前年比1563人の減、利用者、対前年比3463人の増、平野歩夢選手効果料金改正でスキー場の利用者が増加した。

社長兼務の果実は

小林 社長就任時、社長の給料約400万円が経費節減になると答弁している。会社決算に想定通り反映されているのか。

242万円の利益増

町長 人件費、燃料費等の削減で、純利益242万円の利益を計上した。

小林 実質は赤字決算、社長給料分を差し引くと、「約158万円の赤字」になる。

ミラノ万博参加の意義は何か

小林 この事業は、三月の予算審査特別委員会で「町執行者の説明責任が果たされないこと、今は、本町の多様な資源に磨きをかけることに力を注ぐべき」と本会議で否決となり、その後、七月臨時会で改選後の議員で可決した事業である。

私は、目的や事業効果を今も理解できず、町民に納得のいく説明ができない。万博参加は、まちづくり

にどのような意義を持つのか。その前にやる必要があるのではないか。

町の国際化に寄与

町長 ミラノ万博出展を契機に、農商工連携のもと、農林業の六次産業化に向けた振興策を講じていく。

さらに、万博でのステイジイベントの中で、小国町の自然や文化も映像で紹介するので、海外からの誘客・交流人口拡大、観光振興にも大きな期待をしている。将来の発展、国際化に大きく寄与すると思う。

町長の参加立場は

小林 参加メンバーは人選したのか。

また、町長は県の実行委員として町村会から行くかもしれないとの話が事前にあったが、どういう立場で参加するのか。

町長として参加する

町長 実行委員会で農業関係者4名選出、町から私と関係職員2名、合計7名を予定している。

何をアピールするの

小林 「食」に関する祭典と聞くと、現地では、何をどのようにアピールし、帰国後、産業振興等にどのように活かしていくのか。

うどん、なめこ、他

町長 一つは「展示コーナー」へ、つる細工、たかきびうどん、なめこ、観光パンフ、ポストカードの展示。二つ目は「ステイジイベント」で、町の紹介、つる細工の紹介、雑穀うどんの試食など3段階に分け行う。三つめは万博とは別に「知事主催レセプション」で、

小国産なめこを奥田シェフが使う食材にしていた。帰国後は、「いきいき公社」の通販、「町イチ、村イチ2015」、「おきたまマルシェ」等に出展、東京銀座「県のアナテナショップ」にも登録したい。

小林 町長は万博参加を機に、「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人」のことは肝に銘じてほしい。それぞれの立場で、それぞれの役割を十分に発揮できるように、「独善的なやり方」ではなく、町のトップセーラムスマンとして今後の産業振興、人材育成に力を注ぐべきである。

**2015年
ミラノ国際博覧会の概要は
以下でチェック!**

<http://www.expo2015.jp/>



ま みや ひさ え
間宮尚江議員

小国町の文化財が適切に保護、活用されているか

間宮 有形文化財は適切な状態で保存し後世に残すべく責任が課されている。現状はどのような状況で、不十分な点があると判断されるならば、今後どのような対策を考えておられるのか伺いたい。また、無形文化財認定者に対しても後継者育成の努力が課せられているが、町として所有者、認定者に対する今後の助成も伺いたい。

町長 国・県・町指定文化財の価値を認識いただくよう努めていく。

教育長 文化財調査委員を委嘱し教育委員会の諮問に応じ調査審議を行っている。

今後も関係者と緊密な連携、協力を図り保存継承して参りたい。尚、無形文化財については指導者の高齢化、後継者不足という課題があるが様々な取り組みを考えている。

間宮 「白い森くらしの資料館」「やまなみ寮」に保管されている県指定文化財の実態はどうかな不十分な環境下であるならば誠に遺憾なことであり早急な整備が必要であると思われるが、対策について伺いたい。

教育長 どちらも築30年以上経過し老朽化が著しい状況にあり、新たな保管展示の施設整備検討を十分協議して参りたい。

間宮 物理的劣化が著しい上に、過去10年間で人口が急速に減少している。今後の人口減を考えた場合、廃校校舎の利用も含め、文化財保護の早急な対応が必要でないのか伺いたい。

教育次長 廃校校舎の利用も含め、今後の対策を進めたい。

間宮 後世に残すべく町の財産である文化財活用はどのようにお考えか、文化庁の閣議決定された第4次基本方針重点戦略「文化財の積極的活用による、各地域振興・観光振興活用」に示された通り、町外にどのような戦略的発信・公開・活用を考えているのか伺いたい。

教育長 国の今後6年間の文化振興を受け文化芸術振興の一環として本年は文化祭の規模を拡大し「芸術祭」として開催を考えている。

間宮 町道増岡赤芝線の沿道

に町指定文化財の天然記念物「水芭蕉群生地」があり、その面積は県内一と言われていた。そこには有志が10年間も守ってきた経緯がある。早急に町道整備を整え、誘客していく施策が可能ではないのか。

町長 町道整備には優先順位もあることから現段階では難しい。

間宮 その沿道には倒木の恐れのある木が昨年来放置されたままでもあるが、万が一、事故発生が起きた場合は自治体責任になるのではないのか。

地域整備課長 危険倒木は最近も確認してきたばかりであり、早急な対応をしたい。

間宮 町指定文化財史跡「黒沢峠」では地区の方々が36年間も整備等を含め守ってきた。その間、国や県より数々の表彰を頂いた。黒沢峠祭り以外でも随時県外から来訪者がある。「土木遺産認定」を受けるに値すると思うがいかがお考えか。

教育次長 今後、調査検討したい。

間宮 民間の若者有志が「黒沢峠を現代に甦らせ守ってきた地域の方々との絆を大切にしながら、保存活用を努める」という素晴らしい理念のもと過去六年間、黒沢峠で音楽イベント開催に取り組み誘客に努力している。誘客数は年々増加している。文化財活用、観光振興の点から、今後助成していくべきではないか。

教育次長 検討していきたいと思う。

間宮 町指定の有形文化財には上杉藩と縁のあるものが数点あり、米沢市博物館学芸員の方も認識して下さっていた。南陽市ハイジアパークのイザベラバード展示コーナーには黒沢峠の写真が展示されている。広域的に文化財を展開していくことは可能である。

町内外に通う子供たちに「小さな町でも素晴らしい文化財がある」と誇りを持って語れる町づくりが大切ではないのか。

更には、東京オリンピックを控え、世界中が開催地ばかりではなく、日本に目を向けている。大きなチャンスでもある。地域活性化の起爆剤として、ストーリーを持たせた文化財活用を、検討してもらいたい。

各地で婚活イベント盛況! 恋活してみませんか?



婚活イベント情報は **やまがた出会いサポートセンター** で **検索**

新潟県関川村

7月5日(日)

『関こん!』視察してきました。

男 性 15名参加
女 性 13名参加
スタッフ 5名

国重要文化財渡邊邸から
ゲームでスタート!
ランチバイキングは
メニュー豊富で
ボリューム満点でした!



渡邊邸の中に問題が隠れているヨ



“旬彩ダイニング アチエーロ”にてランチバイキング

重要文化財見学

➡ ランチバイキング

➡ バスで見どころ巡り

プチ旅行感覚で、地元食材をおいしく
食べて、楽しく交流できるイベントですね。

今、なぜ婚活なの?

現実!!

- 近年の未婚・晩婚が人口減少の大きな原因となっている。
- 30代男性の2.6人に1人が未婚、女性の4.4人に1人が未婚である。
- 未婚男女の9割の若者が結婚願望があるにもかかわらず、出会う機会が少ないと答えた人が6割もいるという。
- 就職を求めて都会に女性が集中した結果、割合として地方に男性が多くなっている。
- 跡取りがいらないため、空家が年々増えている。

研修報告

平成27年度
市町村議会議員特別講座①
(政策基本コース)

■期 日

平成27年7月6日(月)～10日(金)

■場 所

市町村職員中央研修所

(千葉市美浜区)

■受講者

小林 嘉 議員

間宮 尚江 議員

■内 容

● 社会構造の変化と基礎自治の役割
● 議会改革と議会の活性化ほか



平成27年度

小国町議会議員研修会

■期 日

平成27年9月25日(金)

■場 所

小国町役場 委員会会議室

■講 師

新潟県立大学国際地域学部

准教授

田口 一博 氏

■内 容

「いま、町村議会に求められるものは」議会活性化への取り組みに向けて」をテーマに、地方創生を見据え、議会活性化の具体的な方策等について講義をいただいた。



委員会レポート

Committee Report

文教産建
常任委員会

NPO法人

「ここ掘れ和ん話ん探検隊」との
情報交換会

■期 日

平成27年7月17日(金)

■場 所

小国町役場 委員会会議室

■内 容

「まちづくりへの取り組みと今後の取り組みへ向けて」をテーマに、町内の様々な観光資源を活用したNPO法人のこれまでの取り組みの紹介と、今後の展開等について情報交換を行った。

農業委員会との情報交換会

■期 日

平成27年7月24日(金)

■場 所

小国町役場 大会議室ほか

■内 容

「耕作放棄地の現状とその対策」「農地の有効活用と今後の農政課題」をテーマに、本町における農業を取り巻く現況、課題、今後の方向性等について認識を共有した。



おらも おぐに町民

町の人から
ちょっとひとこと



プロフィール

氏名 渡部 哲也
年齢 29歳
仕事 畜産業・
精肉販売

Q 小国町ふるさと納税返礼品申し込みが『米沢牛』第一位ですが畜産に懸ける思いは？
米沢牛は、置賜で育てた牛であること、2年間は育てなくてはならないという

決まりがあります。

限られた場所で育てなければならぬということ、それを小国町といういい環境で育て、皆さんに美味しい肉を食べていただきたという強い思いがあります。

Q 動物相手というお仕事ですが大変なことや、喜びはなんでしょうか？
やはり大変なことは、

365日、殆ど休みが無いということですね。朝5時半に餌を与えてから店の仕事か、競りに出かけます。夕方は、5時にまた餌を与え牛舎の掃除もあります。動物相手ですから健康管理はとても大切ですし、常に気になりますね。

半面、いい牛が高く売れた時はとても嬉しいですね。

Q 趣味はなんですか？

小、中、高校とサッカーをやってきました。今は時間も無くて、思うようにできませんが、サッカー観戦も含め好きですよ。

Q プライベートでこれからやってみたいこと、ありませんか？

難しい質問ですね。そうですね、旅行してみたいです。今は、福岡に行つてみたいかな……特に理由は無いですが福岡の屋台とか出店巡りで、旨いお酒を飲んでみたいですね（笑）

Q 若者の一人として小国町に必要なこと、皆でトライしてみたいこと、何かありませんか？
人口減少は気になります。

若者が一度は都会に出ていくことは別に構わないと思いますが、戻って来たい時に、小国町が戻れる環境であるという事が、必要だと思います。

人口減少にも関係しますが……小国町のお祭りは盛り上がりますね、そこで各

地区合同でのお祭り開催など、トライしてみるのも楽しそうですね。

Q 最後に、家族に寄せる思いをお聞かせ下さい。

父親が亡くなっています。が、今の自分があるのは、父親のおかげだと思うています。ここまで残してくれました。これからも残してこれたことに感謝して、自分は父親の分まで頑張ろうと思っています。

同居している母親には「お母さん、いつも、ありがとうございます。」

ふるさと納税 順調に伸びています！

H27.9.2 現在 317 件 約 510 万円

＝人気返礼品ランキング＝

- 第1位 米沢牛
- 第2位 羽前桜川純米大吟醸
- 第3位 たかきびうどん

次は12月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62) 2448

編集後記

議事に身を置いて半年。今まで見慣れた町の様子や風景が違って見える気がする。漠然と視界を通り過ぎていた「もの」に対する人の息づかいを感じるから、と気付く。

「生活」とは「生き生き」と「生きる」とと教えてもらったことがある。この町に住む人たちが、ただ「生きる」だけの毎日を送ることがあつてはならない。幸せな「生活」を送ることができるよう、私たち議員は活動するのだ、と自らに言い聞かせる。

十月の異名は神無月。古来よりひとびとは豊作を祈り、恵みに感謝を捧げた。古代の人たちが見た山や川の姿はどうであつたらう。思いを馳せる。

今（記）

発行責任者

議長 高野 健人

議会広報特別委員会

委員長 小関 和好

副委員長 今 康成

委員 石山久美子

間宮 尚江